

展示記録

「愛知うつわ物語－江戸・明治のやきもの－」

小川 裕紀

(愛知県陶磁美術館 主任学芸員)

佐久間 真子、婁 洙浄

(愛知県陶磁美術館 学芸員)

概要

愛知県は平成 30 年に『愛知県史 別編 文化財 5 工芸』を刊行した。同書の刊行を記念し、愛知県陶磁美術館は愛知県史編さん室の協力を得てテーマ展示「愛知うつわ物語」を開催し、同書で扱った県内の近世・近代陶磁について、同書掲載作品及び同館所蔵作品によって展示紹介した。本稿は、同展示の開催記録である。

キーワード：

愛知県史 愛知県 近世 近代 陶磁 展示概要

1 はじめに

(1) 本稿の目的及び構成

愛知県は平成 30 年 9 月に『愛知県史 別編 文化財 5 工芸』を刊行した。同書の刊行を記念し、愛知県陶磁美術館は愛知県史総務部法務文書課編さん室の協力を得て、愛知県陶磁美術館開館 40 周年記念テーマ展示／『愛知県史 別編 文化財 5 工芸』刊行記念展示「愛知うつわ物語－江戸・明治のやきもの－」を開催した（会期：平成 30 年 10 月 27 日(土)から 12 月 16 日(日)まで、会場：愛知県陶磁美術館本館 1 階特別展示室）。本展示では、同書で扱った県内の近世・近代陶磁について、同書掲載作品及び同館所蔵作品によって展示紹介した。県史刊行記念展という展示の性格上、本展では展覧会図録を制作しておらず、展示室で配布した出品目録を除き、独自の刊行物が存在しない。そこで、本稿では同展示について実施の概要を記録することとしたい。なお、本稿は展覧会実務を担当した学芸員の小川、佐久間、婁が執筆して各項末尾に分担を示し、全体を小川がとりまとめた。(小川)

(2) 展示開催の経緯

愛知県は、平成6年度から『愛知県史』の編さん事業を進めている。『愛知県史』は、愛知県の歴史的な発展過程を明らかにするとともに、貴重な資料を取りまとめて後世へ伝えるもので、計58巻を刊行するという本格的な編さん事業である。平成30年には、『愛知県史 別編 文化財5 工芸』を刊行し、同書において愛知県ゆかりの金工、染織、木工・漆工などの工芸品とともに、第3章「陶磁・近代工芸」において近世・近代の陶磁工芸品を紹介している。

本展は、同書の刊行を記念するとともに、愛知県の歴史と文化について多くの方に理解を深めていただくことを目的として、当館が愛知県史編さん室の協力を得て開催したものである。

展示では、同書の第3章「陶磁・近代工芸」掲載された資料のうち、本県の近世・近代陶磁を展示紹介した。可能な限り掲載された資料そのものを出品するべく、編さん委員の協力も得て借用品および館蔵品を合わせて50点の資料を出陳した。

また、教育普及事業として、同書の第3章「陶磁・近代工芸」において執筆を行った4名の委員を講師に招き「県史講演会 愛知の工芸・やきもの」を開催した。(佐久間)

2 展示概要

(1) 構成

『愛知県史 別編 文化財5 工芸』「第3章 陶磁・近代工芸」の構成は以下の通りである。

第一節 概説

第二節 名古屋城下のやきもの

- 一 名古屋市内諸窯
- 二 オールドノリタケ

第三節 尾張のやきもの

- 一 大高焼・古戦場焼
- 二 瀬戸焼
- 三 犬山のやきもの
- 四 常滑焼
- 五 内海焼

第四節 三河のやきもの

- 一 甲山焼
- 二 八ツ面焼・楠焼・深喜亭焼

三 豊田のやきもの

四 三州瓦

第五節 狛犬

第六節 七宝

第七節 主要作品解説

本展の構成及び解説内容は、基本的に上記に準じるものとした。ただし、第一節概説は要約文を展示全体の総論パネルとしたため、対応する独立の展示作品はない。また、第三節二瀬戸焼については、陶磁美術館で同会期に開催した特別企画展「江戸時代の本業と新製」で大きく扱ったため、本展示では省略した。第五節狛犬については本展示で扱うとともに、西館常設展示「陶磁のこま犬百面相」を関連展示として位置づけた。第六節七宝については、本展では陶磁胎七宝のみを対象とした。なお、第七節主要作品解説が扱った作品は、第二節から第五節までの各論に含めて紹介した。(小川)



特別展示室東側壁面ケースに、第二節一、第三節一、三、五及び第七節の一部を展示。



特別展示室西側壁面ケース（画像奥）に、第四、第五、第六節及び第七節の一部を展示。
室内東側に設置の独立ケース2基に第二節二、西側の独立ケース2基に第三節四を展示。

(2) 出品作品

展示作品は『愛知県史 別編 文化財 5 工芸』-「第3章 陶磁・近代工芸」の掲載作品の一部であり、掲載されていない作品も出品した。また、展示は当館の館蔵品を中心としているが、当館が所蔵していない産地作品については、県内各地の関係機関より御出品いただいた。

なお、瀬戸焼については、同時開催中の特別企画展「瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製」で大きく扱っているため、本展示では省略した。(佐久間)

No	節	項	作品名	産地/窯/作者等	年代	所蔵	県史掲載箇所
1	名古屋城下	市内諸窯	大根絵茶碗	御深井焼	江戸時代後期	個人蔵 愛知県陶磁美術館寄託)	県史工芸P229/図3-2-3-4
2	名古屋城下	市内諸窯	ふくろ香合	萩山焼	江戸時代後期	個人蔵 愛知県陶磁美術館寄託)	県史工芸P230/図3-2-7-8
3	名古屋城下	市内諸窯	葉形手鉢	東山焼	江戸時代後期	個人蔵 愛知県陶磁美術館寄託)	県史工芸P231/図3-2-9-10
4	名古屋城下	市内諸窯	茶入「山陰」	案々園焼	江戸時代後期	個人蔵 愛知県陶磁美術館寄託)	県史工芸P232/図3-2-11~14
5	名古屋城下	市内諸窯	赤茶碗	案々園焼	江戸時代後期	個人蔵 愛知県陶磁美術館寄託)	県史工芸P232/図3-2-15-16
6	名古屋城下	市内諸窯	志野茶碗	九朗焼 平澤九朗	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 川崎音三氏寄贈) A-0112	県史工芸P234/図3-2-19-20
7	名古屋城下	市内諸窯	雪遊び蓋置	正木焼 正木惣三郎	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 A-2482	県史工芸P235/図3-2-21-22
8	名古屋城下	市内諸窯	牡丹文重箱	豊楽焼 四代豊助	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 A-1199	
9	名古屋城下	市内諸窯	摩訶文四方皿	笹島焼	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 A-4642	県史工芸P237/図3-2-25-26
10	名古屋城下	市内諸窯	富士向付	酔雪焼	天保年間(1830-1844)	(公財)荒木集成館	県史工芸P238/図3-2-27~29
11	名古屋城下	市内諸窯	銅版染付草花丸文繋鉢	川名焼	江戸時代後期	個人蔵 愛知県陶磁美術館寄託)	
12	名古屋城下	市内諸窯	草摘み少女・童女・天平美人・寿老	月谷焼	大正~昭和時代初期	愛知県陶磁美術館 A-1220	
13	名古屋城下	オールドリタケ	色絵金点盛水文花瓶	森村組・西郷久吉工場	明治17-23年(1884-90)	(株)ノリタケカンパニーリミテド	県史工芸P242/図3-2-34
14	名古屋城下	オールドリタケ	色絵金点盛水仙文花瓶	森村組/日本陶器合名会社	明治24-大正10年(1891-1921)	(株)ノリタケカンパニーリミテド	県史工芸P243/図3-2-35
15	名古屋城下	オールドリタケ	色絵金点盛藤文花瓶	日本陶器合名会社	明治42年(1909)頃	(株)ノリタケカンパニーリミテド	県史工芸P304/図3-7-3
16	名古屋城下	オールドリタケ	色絵幾何学文コンポート	日本陶器合名会社	大正9-昭和4年(1920-29)	(株)ノリタケカンパニーリミテド	県史工芸P245/図3-2-38
17	尾張	名古屋南部	陶片一括	大高焼	江戸時代後期	個人蔵	県史工芸P246/図3-3-3
18	尾張	名古屋南部	帆船文皿	古戦場焼	江戸時代末期(1853-1868頃)	(公財)荒木集成館	県史工芸P247/図3-3-6-7
19	尾張	犬山	陶片一括	今井焼	江戸時代後期	個人蔵	
20	尾張	犬山	赤絵玉取獅子図大皿	犬山焼	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 A-1507	県史工芸P311/図3-7-23~25
21	尾張	犬山	赤絵鉢	犬山焼	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 川崎音三氏寄贈) A-0106	県史工芸P259/図3-3-33
22	尾張	犬山	色絵雲錦手大鉢	犬山焼	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 浅井藤雄氏寄贈) A-2560	
23	尾張	知多半島	菓子器	常滑焼 赤井陶然	江戸時代後期	愛知県陶磁美術館 A-1086	
24	尾張	知多半島	朱泥茶鉢	常滑焼 初代山田常山	大正10-14年頃(1921-1925頃)	愛知県陶磁美術館 三代山田常山氏寄贈) A-2621	
25	尾張	知多半島	壺	常滑焼	明治時代	愛知県陶磁美術館 岩田鏡一氏寄贈) A-1238	
26	尾張	知多半島	朱泥雲龍文壺	常滑焼	明治時代	愛知県陶磁美術館 杉江伍一氏寄贈) A-0241	
27	尾張	知多半島	鉄軸水注	内海焼 明月窯	明治19-24年	南知多町教育委員会	県史工芸P319/図3-7-44
28	尾張	知多半島	鉄軸花入	内海焼 明月窯	明治19-24年	南知多町教育委員会	県史工芸P319/図3-7-45
29	尾張	知多半島	手焙	内海焼 明月窯	明治19-24年	南知多町教育委員会	県史工芸P273/図3-3-54
30	尾張	知多半島	饅頭蒸し器	内海焼 明月窯	明治19-24年	南知多町教育委員会	県史工芸P274/図3-3-55
31	尾張	知多半島	家肴炉	内海焼 山寺窯	明治末-大正初期	南知多町教育委員会	県史工芸P274/図3-3-56
32	三河	岡崎	色絵花蝶文鉢	甲山焼 永楽和全	明治10年(1877)	愛知県陶磁美術館 A-2221	県史工芸P321/図3-7-48-49
33	三河	岡崎	富貴長命字鉢	甲山焼	明治10年代-20年代前半	愛知県陶磁美術館 鈴木克明氏寄贈) A-4049	
34	三河	岡崎	鳳凰文土瓶	甲山焼	明治10年代-20年代前半	愛知県陶磁美術館 鈴木克明氏寄贈) A-4039	
35	三河	岡崎	菊花文杯	甲山焼	明治10年代-20年代前半	愛知県陶磁美術館 鈴木克明氏寄贈) A-4043	
36	三河	西尾	甕	八ツ面焼 加藤八右衛門	江戸時代後期	西尾市教育委員会	県史工芸P323/図3-7-53
37	三河	西尾	徳利	八ツ面焼 加藤熊蔵	江戸時代後期	個人蔵	
38	三河	西尾	無袖水指	桶焼 永江文八	江戸時代後期	個人蔵	県史工芸P324/図3-7-56
39	三河	西尾	行平鍋形菓子器	桶焼 永江文八	江戸時代後期	個人蔵	県史工芸P325/図3-7-57
40	三河	西尾	食籠	深喜亭焼 鬼頭庄七	江戸時代後期	西尾市教育委員会	県史工芸P325/図3-7-58
41	三河	豊田	掛花入	弓月焼	嘉永6年(1853)	個人蔵	県史工芸P326/図3-7-60-61
42	三河	豊田	折縁皿	弓月焼	嘉永4-5年(1851-52)	個人蔵	県史工芸P326/図3-7-60-61
43	三河	豊田	茶碗	拳母焼 角岡頼二郎	大正-昭和初期(1920年代-1930年代)	豊田市民芸館	
44	三河	豊田	花入	拳母焼 犬飼嘉山窯	昭和初期	豊田市民芸館	
45	三河	三州瓦	獅子文留蓋瓦(西尾市お幾稲荷所用)	碧南・柳尾 永坂全兵衛	文久3年(1863)	高浜市やきものの里かわら美術館	県史工芸P291/図3-4-15
46	狛犬		鉄軸山犬型狛犬 阿	瀬戸	室町時代(5世紀)	愛知県陶磁美術館 本多静雄氏寄贈)	県史工芸P330/図3-7-72
47	狛犬		御深井釉狛犬 一对	美濃・可児大平 加藤柳右衛門彫定	宝暦6年(1756)	上中切神明神社	県史工芸P294/図3-5-12
48	狛犬		瓦製狛犬 一对	高浜瓦師 四郎兵衛・七左工門	享保8年(1723)	春日神社	県史工芸P296/図3-5-14
49	七宝		磁胎七宝花蝶文花瓶	名古屋 竹内忠兵衛	明治時代前期	愛知県陶磁美術館 A-2446	
50	七宝		磁胎七宝花文急須	名古屋 吉田長重	明治時代前期	愛知県陶磁美術館 A-2439	

(3) 展示グラフィック

本展、『愛知県史・別編 文化財5 工芸』（以下、『愛知県史・工芸』）刊行記念展示「愛知うつわ物語—江戸・明治のやきもの—」の看板とポスター作成に当たって大きく次の3点ほどを考慮しながらグラフィックデザインを行った。

とりわけ、本展が「愛知」に視点を置きながら、愛知県史の刊行記念の展示である特色を第一に考慮し、愛知県内の近世・近代の陶磁工芸が多様で、地域ごとに特色があることを一目で分かるようなデザインを目標にした。そのため、全体のレイアウトを愛知県の地図を用いて、本展に出品されるやきものを各地域に配置していく方向性にした。ただし、看板のサイズを入口正面に設置した横長の可動壁に合わせてできるだけ大きくすることで、視認性の高さインパクトを狙ったため、地図を配置した際に余白が生まれることとなったが、そこにも画像を入れ込むことで解消した。一方、ポスターはB2サイズで縦長のため、地図の両側面が少々はみ出た形で拡大したものを配置した。

また、愛知県史の刊行記念の展示という性格を表すべく、『愛知県史』の青色の背表紙に本展のタイトルが書かれているイメージをコンセプトにした。レイアウトとしては、出品作品が少ない地域にタイトルを重ねて、看板はバランスを考慮しながらタイトルがより目立ちやすい中央に配置した。なお、看板とポスターに用いたフォントは、『愛知県史』のフォントに類似した明朝体にして統一感を出した。【図1】 【図2】 【図3】

そして、同時に開催されている特別企画展「瀬戸—かく焼き繋ぎ江戸時代の本業と新製」と合わせて観覧できるように本展への誘導看板を制作した。本展の看板とポスターのメイン色調を緑色にした理由も、特別企画展のチラシ・看板の色合いに被らないかつ違和感がないように設定した。誘導看板には、特別企画展に出品された亀井半二の「瀬戸陶業之図」に描かれている職人たちを切り抜き、誘導サインの代わりに用いて（特別企画展示室内にも設置【図4】）、その職人たちが持っているやきものに本展の出品作品の名称を入れることで、展覧会同士の融合を狙いながら誘導を試みた。【図5】（表）



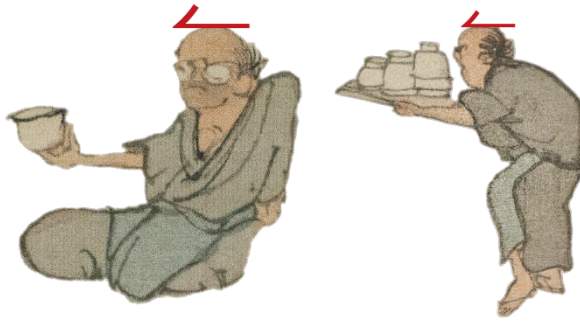
【図 1】看板(2000×1100 mm)



【図 2】ポスター (515×728mm)



【図 3】実際の設置写真



【図4】 特別企画展内の誘導サイン(2種類)と、実際の設置写真
 (左のサイン：680×650mm、右のサイン：500×630mm)





【図 5】 特別展示室への誘導看板(2 種類)と、実際の設置写真
(いずれも 500×500mm のサイズ)

3 教育普及事業

－ 県史講演会「愛知の工芸・やきもの」実施報告－

ここでは、展覧会の教育普及事業として、11月24日(土)の13時30分から16時まで本館地下講堂において『愛知県史・別編 文化財5 工芸』の刊行に深く関わりのある執筆者4名をお招きし、ご講演いただいた県史講演会「愛知の工芸・やきもの」の概要を報告する。

まず、愛知淑徳大学非常勤講師の赤羽一郎氏による「愛知の工芸・やきもの」のご講演では、県史で扱った資料群（名古屋城下・尾張・三河のやきもの、三州瓦、狛犬、近代工芸）の中で代表的なものを取り上げてその特徴と用途などを紹介する一方、執筆にあたってどのような目的で、どのような試みをしていったのかという総括的なお話をいただいた。とくに、やきものには「陶業と陶芸」の言葉があり、執筆をする上で両者は相反するのではなく、補完し合うものであることを考えた点、又今後文化財として保護されていくべき資料群がどのような基準で選別されていたかという点などについて貴重なお話をいただいた。

続いて、瀬戸市美術館館長の服部文孝氏には「瀬戸焼の工芸的評価」というタイトルで、「美的」な視点からみた近代陶磁の評価及び、美術・工芸品としての瀬戸焼における評価の現状を時代的な背景を踏まえながらお話しいただいた。とくに、近年「超絶技巧」として注目されている近代陶磁において、工業と工芸の見方を踏まえた上で瀬戸焼の位置づけについて再考の必要がある現状など大変興味深いお話をいただいた。

また、愛知学院大学非常勤講師の中野晴久氏には「工芸品としての常滑焼」というタイトルで、大きく三つの視点、とりわけ抹茶器、煎茶器、また輸出品・工業製品としての視点に分けて歴史と文化を踏まえた上で、常滑焼の魅力についてお話しいただいた。とくに、土の制約がある中で生まれた常滑焼において、中国の茶器や茶風との比較をしながら茶人と名工はどのような美意識を持って評価していたか、さらにマルセル・デュシャンの視点でみる近代常滑の土管や便器の評価など多角的なお話をお聞きすることができた。

最後に、瀬戸市文化振興財団理蔵文化財センター主任の青木修氏には「犬山のやきもの」というタイトルで、瀬戸焼と常滑焼に比べると知名度が低い犬山焼について「今井焼」、「犬山焼」、「記念銘のある犬山焼」、「近代の犬山焼」という5つの種類に分けて、その特徴及び研究報告の現状、また今後の課題などをご紹介いただいた。とくに、考古学的な視点と調査によって得られた結果と、それに即して立てられた仮説など大変興味深いお話をいただいた。

参加者は60名であった。なお、講演会の企画と実務の多くを県史執筆・講演者及び県史編さん室の方々が担当し、当日の会場入口脇では県史の販売も行った。(裏)

4 おわりに

本展観覧者数は、単独では愛知県陶磁美術館の利用者数には計上されない。本展と同会期、同施設の同階で開催された特別企画展の観覧者は3,750名であり、本展にもほぼ同程度の展示観覧者があったものと思われる。

本展開催時点で、陶磁美術館では東山焼、楽々園焼、酔雪焼、オールドノリタケ、大高焼、古戦場焼、今井焼、内海焼、八ツ面焼、楠焼、深喜亭焼、弓月焼、拳母焼を所蔵していない。県史工芸においてこれらの産地項目に関係したご所蔵者と担当執筆者のご協力なしには、本展は開催することはできなかった。

陶磁美術館では、平成28年(2016)から常設展「もっと伝えたい 愛知のやきもの」を開催しているほか、30年度には愛知県域をテーマとした企画展を順次開催した。これらは、陶磁美術館が本県地域の文化資源についてより一層の保護と活用に取り組むことによって、本県独自の文化に対する理解を広め、地域社会の形成と振興に寄与できることを企図している。今次の県史展示を一つの出発点として、今後は上記の県内未収集産地資料についても資料収集と館内常設展示に取り組み、地域社会により親しまれ、貢献する陶磁美術館事業を展開していきたい。(小川)



展示室入口内に、『愛知県史 別編 文化財5 工芸』の閲覧コーナーを設置した。